

# 相次ぐ学級閉鎖、子どもたちを新型コロナから守れ!!



**子どもの感染状況は**  
副市長 年末年始の人出があつて、1月中旬の感染発表を心配していた。次は、今回の連休の結果がどうなるか、注目している。  
教育長 現場からの報告では感染は減っているとのことだった。

14日、共産党議員団は学校を中心に子どもへの感染が広がっていることから、子どもにかかわる緊急要望書を市に提出しました。  
要望項目は、①教員、保育士等への3回目のワクチン接種を急ぐこと。②全ての児童・生徒などに自抗原検査キットを配布すること。③子どものワクチン接種について、適切な情報提供を行うことの3点です。  
最初に村上かずしげ市議団長が要請趣旨を説明、その後、伴副市長、岡部教育長と意見交換をしました。

**学級閉鎖の子の居場所**  
村上 学級閉鎖のことだが、低学年の子は学級閉鎖になったらあずかる場所がないと聞く。親がいないとオンライン授業も難しい。学級閉鎖になったら児童館に行けるのか。  
副市長 学級閉鎖になったら、児童館は利用できない。医療現場からは、子どもが学級閉鎖で家にいることになつたので医療従事者が出勤でなくなつて、マンパワーが足りないとの声も寄せられている。

**抗原キットがあれば**  
教育長 12月議会で議決した補正後に2160セットの発注をしたが、入荷したのは400だけだった。  
梅津 抗原キットがあれば、子どもはオミクロンでは重症化しないこともあつて、継続的な教育活動が可能となるのではないか。  
教育長 早期に感染者を見つけることにつながる。今は、感染が発生したときには、迅速な学級閉鎖とオンライン授業で対応している。



## 共産党議員団の緊急要請の項目

1. 早期に教職員、保育士、放課後児童クラブ指導員等への3回目ワクチン接種をきめ細やかに進めること。
2. 全児童生徒・園児に抗原検査キットを配布すること。
3. 5～11歳のワクチン接種については、保護者への情報を、丁寧にきめ細やかに行うこと。



感染発生による保育園の閉鎖は、わずかの期間にありましたが、いまは感染可能性の強い子以外は預かるように変わり、休園もなくなりました。しかし、学校では検査が十分できないので、「感染児童が出たらまずは三日間は学級閉鎖」となっています。

感染している子が自宅で療養するのは当然ですが、感染していない子どもの居場所の確保は、ほつておけない課題です。低学年の子はひとりではお留守番が難しい子もいますし、タブレットでオンライン授業を受けることも無理です。  
ひとり親など、仕事を休めない家庭もあるはずですよ。